

加太小学校だより

<http://www.kameyama-mie.jp/kblog/kabuto/>

令和6年
9月13日
No.11



「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」の結果から

I学期に「全国学力・学習状況調査」(国・算6年生対象)、三重県作成のテスト「みえスタディ・チェック」(国・算4年生対象)を行い、前学年までに学習したことの定着度をはかりました。子どもたちの中には、解答時間が足りない子もいましたが、全員が最後まで真剣に取り組んでいました。この調査では、学力面だけでなく、生活習慣や学習環境等に関する児童質問紙調査も行われました。

「全国学力・学習状況調査」の結果、全ての教科において全国平均正答率を大きく上回りました。「みえスタディ・チェック」の結果も全ての教科において県平均正答率を上回りました。一方で、問題別に見てみると、以下のように正答率の高い問題(強み)と正答率の低い問題(弱み)が明らかになりました。これらの結果を授業改善や今後の取組に活かしていきます。

教科に関する調査結果より

※全国平均・県平均と比較して10ポイント以上差があるものをあげました。
※「○」は、強み 「●」は、弱み

	6年	4年
国語	【知識及び技能】 ○文脈に即して正しく漢字を使う。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。 ●話し言葉と書き言葉との違いに気づく。 ●日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づく。 【話すこと・聞くこと】 ○目的や意図に応じて、日常生活から話題を決め、伝え合う内容を検討する。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する。 【読むこと】 ○人物像を具体的に想像する。	【知識及び技能】 ○文の主語を選択する。 ○「そこ」が指し示す内容を選択する。 ●漢字を書く。 【読むこと】 ●理由が書かれている段落を全て選択する。 
算数	【数と計算】 ○問題場面の数量の関係を捉え、式に表す。 ○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。 ○除数が小数($540 \div 0.6$)の計算をする。 【変化と関係】 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する。 【図形】 ●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。	【数と計算】 ○1mを3等分した1つ分の長さを分数で表す。 ○32×26の計算をする。 ○2mを8等分した3つ分の長さを分数で表す。 ○$12 \div 3$の式で求められる問題を全て選択する。 【測定】 ○午前11時40分から午後1時20分までの時間を選択する。 【図形】 ●縦3cm、横5cmの長方形のまわりの長さを求める。 【データ】 ●棒グラフから、からあげが好きな人とシチューが好きな人とでは、どちらが何人多いか求める。

質問紙調査による結果より

※全国平均と比較して特に顕著な傾向があるものをあげました。
※「○」は、強み 「●」は、弱み

自己肯定感など	○先生はあなたのよいところを認めてくれている。 ○将来の夢や目標を持っている。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。 ●自分にはよいところがあると思う。
地域や社会に関わる活動の状況	●地域や社会をよくするために何かをしたいと思う。
学習習慣など	●学校の授業時間以外に、勉強をする。
授業・教科など	○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。 ●国語、算数の勉強は好き。
学校生活、その他	○友達関係に満足している。 ●困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。

今後の取り組みについて



これらの学力調査の結果は、調査した学年だけのものではなく、全ての学年の指導の在り方に関わってくるものです。そこで、今回明らかになった本校の課題を全教員で共有し、全学年の毎日の授業において授業改善に取り組みます。また、質問紙調査から見てきた課題に対しても、学校、家庭、地域が連携・協力しながら取組を進めていきます。

☆相手に伝わるように説明する力をつける。

- ・全教科において、話し方のポイントに沿って自分の考えを説明する活動を行う。
- ・相手に伝わるように順序だてて論理的に説明できるように書いたり話したりする機会を多くもつ。
- ・数字や言葉、式を使って記述したり、条件に合わせてまとめたりする機会を増やす。



☆文章を読んで、内容を正しく捉える力をつける。

- ・様々な文章や問題文を読んで意味や意図を正しく認識する力をつけるために継続して読書指導に取り組む。
- ・様々な教科において、新聞やパンフレット、リーフレットなどの資料や図表などを活用し、読み取った内容をまとめる活動を行う。

☆言葉の特徴や使い方に関する力をつける。

- ・繰り返し漢字練習を行い、文脈に即して正しく使えるようにする。
- ・日常的に読書に親しませたり、言葉の宝箱を活用させたりして語彙力をつける。

☆「図形」「データ活用」の領域の学習を繰り返し行う。

- ・各学年で学習する図形の定義・性質を確実に理解させるとともに、面積・体積の公式を場面に応じて活用する問題に取り組む。
- ・各学年で学習するグラフ(棒グラフ、円グラフなど)の目盛りを確実に読み取れるようにする。

☆自己肯定感を高める取り組みを行う。

- ・児童に異学年交流活動などを企画・運営させたり、様々な教育活動において児童が活躍できる場を設定したりして達成感を味わわせる。活動後には、活動を振り返ったり、感謝の気持ちを伝えたりする場面を設定し、児童同士のつながりを深める。
- ・帰りの会などで子ども同士が認め合う場を設定する。また、教師も子どもたちの具体的な行いや取組の過程、成長した姿を言葉に表して伝える。

☆家庭・地域との連携した取組を行う。

- ・活動の目的を明確にしたふるさと学習を進める中で、地域の方と多く交流したり、地域の方の思いにふれたりする場面を多く設定する。そして、地域の方がなぜいろいろなことをしてくださるのか、考える機会をもつ。
- ・メディアコントロール週間において、自分自身が考えたことやできるようになったことを学級で互いに話し合い、学び合う中で、自分自身の生活習慣を見直していく。
- ・家庭と連絡を取り合いながら家庭学習の習慣化に向けて取り組む。
- ・全教職員で一人ひとりの子どもをしっかりと見つめ、受容の姿勢で関わる。